I·O DATA

ファイル復旧ソフト

Data Salvager Pro

データサルベージャープロ

D-SALPRO
取扱説明書

M-MANU200365-02

もくじ

DataSalvager Pro とは？ ····· 1
必ずお守りください ····· 3

お使いになる前に ····· *5*

箱の中には ····· 6
動作環境 ····· 7
ご使用上の注意 ····· 9
対応拡張子 ····· 11

起動方法の選択 ····· *13*

Windows 上で起動して使用する ····· *15*

起動する ····· 16
インストールしないで起動する ····· 17
インストールして起動する ····· 19
検索・回収する ····· 24
簡単ファイル検索 ····· 26
マニュアル検索≪スキャン≫ ····· 31
マニュアル検索≪既存ファイルシステム解析≫ ····· 38
終了する ····· 42

CD から直接起動して使用する ····· *43*

起動する ····· 44
検索・回収する ····· 45
マニュアル検索≪スキャン≫ ····· 46
マニュアル検索≪既存ファイルシステム解析≫ ····· 52
【参考】ドライブ診断機能 ····· 56
終了する ····· 58

ふろく ····· *61*

ツールバーについて ····· 62
DataSalvager Pro の削除 ····· 63
困ったときには ····· 64

お問い合わせ ····· 68

DataSalvager Pro とは？

DataSalvager Pro（データサルベージャー プロ）は、ファイルが破損・消失してしまった場合等、通常の操作で読み取れなくなってしまったファイルを検索・回収するためのソフトウェアです。
Windows が起動しなくなってしまった場合でも、CD から直接本ソフトウェアを起動することでファイルの検索・回収を行えます。
主に以下のような検出方法があります。

◇ファイルの検出方法

【1：デバイスまたはパーティション全体からファイルを検出する(スキャン機能)】

ドライブまたはパーティション全体をスキャンして解析することでファイルを検出します。
検出方式には以下の 3 つのタイプがあります。

①データベース方式

ファイルのデータベースを利用して、対応する拡張子のファイルを検出します。
ファイル名等を復元することや、データベースに無いファイルを検出することは出来ませんが、ファイルシステムに関係なく復元可能です。
※検出可能な対応拡張子については、【対応拡張子】（11ページ）参照。

②FAT 方式

FAT ファイルシステムの情報を利用してファイルを検出します。
ファイル名や日付、属性等の情報も復元すること可能です。
ただし、回収したいファイルを書き込んだ時のファイルシステムが、FAT ファイルシステムである必要があります。

以下のデバイスやメディアは FAT ファイルシステムでフォーマットされている事が多いため、FAT 方式での検出がお勧めです。

- ・フロッピーディスク
- ・MO ディスク
- ・USB フラッシュメモリー
- ・メモリカード(SD メモリカード/メモリスティック等)
- ・ハードディスク(主に外付タイプ)

③NTFS 方式

NTFS ファイルシステムの情報を利用してファイルを検出します。
ファイル名や日付、属性等の情報も復元すること可能です。
ただし、回収したいファイルを書き込んだ時のファイルシステムが、NTFS ファイルシステムである必要があります。（NTFS ファイルシステムは Windows Vista™/XP/2000 などでフォーマット可能なファイルシステムです。）

以下のデバイスやメディアは NTFS ファイルシステムでフォーマットされていることが多いため、NTFS 方式での検出がお勧めです。

・ハードディスク(主に内蔵タイプ)

【2：削除ファイルを検出する(既存ファイルシステム解析機能)】

既存ファイルシステムを解析し、ディレクトリの構成そのままで削除ファイルを検出することが出来ます。
ドライブ全体を解析する必要が無いため解析時間が短く、またファイル名や日付、属性等も復元することが可能です。
ただし、回収したいファイルを書き込んだ時のファイルシステムが、FAT ファイルシステムである必要があります。

ファイルを誤って削除したような場合に有効な方法です。

※対応ファイルシステムは FAT12、FAT16、FAT32 です。
※検出できるファイルの拡張子に制限はありません。

◇Windows が起動しない場合でも・・・

CD-ROM から直接本ソフトウェアを起動することで、本ソフトウェアの基本的な機能を使用することができます。
Windows が起動しなくなった場合で、Windows がインストールされていたハードディスクからファイルを回収したい場合に有効な方法です。

※パソコンおよび CD-ROM ドライブが CD ブートに対応している必要があります。
※ファイルの保存先デバイスに、FAT フォーマット済みの USB 接続ストレージデバイス（ハードディスク、USB フラッシュメモリー等）が必要です。

必ずお守りください

ここでは、お使いになる方への危害、財産への損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくための注意事項を記載しています。
ご使用の際には、必ず記載事項をお守りください。
This product is for use only in Japan.　We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.

警告および注意

⚠ 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人体に多大な損傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性又は物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵記号の意味



この記号は注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例） 「発火注意」を表す絵表示



この記号は禁止の行為を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例） 「分解禁止」を表す絵表示



この記号は必ず行っていただきたい行為を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例） 「電源プラグを抜く」を表す絵表示

⚠ 警告


厳守

本ソフトウェアを使用する場合は、ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している警告、注意表示を厳守してください。

⚠ 注意


注意

本ソフトウェアを使用中にデータなどが消失した場合でも、データなどの保証は一切いたしかねます。


禁止

本ソフトウェアは以下のような場所で保管･使用しないでください。

破損の原因となることがあります。

- ●振動や衝撃の加わる場所
- ●直射日光のあたる場所
- ●湿気やホコリが多い場所
- ●温度差の激しい場所
- ●熱の発生する物の近く（ストーブ、ヒータなど）
- ●強い磁力電波の発生する物の近く
  （磁石、ディスプレイ、スピーカ、ラジオ、無線機など）
- ●水気の多い場所（台所、浴室など）
- ●傾いた場所
- ●腐食性ガス雰囲気中（CI_2、H_2S、NH_3、SO_2、NO_Xなど）
- ●静電気の影響の強い場所


禁止

以下の注意をしてください。

- ●落としたり、衝撃を加えない
- ●本ソフトウェアの上に水などの液体や、クリップなどの小部品を置かない
- ●重いものを上にのせない
- ●本ソフトウェアのそばで飲食･喫煙などをしない


注意

本ソフトウェアは、日本国内仕様です。

本ソフトウェアを日本国外で使用された場合、弊社は一切責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、およびアフターサービスなどを行っておりません。あらかじめ、ご了承ください。

お使いになる前に

箱の中には……6
動作環境……7
ご使用上の注意……9
対応拡張子……11

箱の中には

箱の中には以下のものが入っています。

☐にチェックをつけながら、ご確認ください。

万が一不足品がございましたら、弊社サポートセンターまでご連絡ください。

☐ DataSalvager Pro(1枚)[CD-ROM]



☐ Ver シール(1枚)

シリアル番号(S/N)が記載されています。

☑ DataSalvager Pro 取扱説明書(1冊)[本書]

注意！

添付の CD-ROM は大切に保管してください。

添付の CD-ROM を紛失した場合の対応はいたしかねます。
あらかじめご了承ください。

参考

箱・梱包材は大切に保管し、修理などで輸送の際にお使いください。

ユーザー登録やダウンロードにはシリアル番号(S/N)が必要

▼ここに本製品に添付されている Ver シールを貼ってください。

Ver シールに記載してあるシリアル番号(S/N)は、ユーザー登録やサポートソフトのダウンロードの際に必要です。

- **ユーザー登録　⇒http://www.iodata.jp/regist/**
- **ダウンロード　⇒http://www.iodata.jp/lib/**

動作環境

本ソフトウェアは以下の環境でお使いになれます。

◇Windows 上で起動して使用する場合

対応機種	パソコン	対応 OS が正常に動作している DOS/V マシン
	対応 OS	Windows Vista™※1/Windows XP※1/Windows 2000※1 /Windows Me/Windows 98※2 (98 SE 含む※2)
	CPU	Pentium II 333MHz 以上
	メモリ	128M バイト以上(256M バイト以上推奨)※3
	ディスプレイ	1024×768 ピクセル以上 16bit 以上の解像度推奨
	CD-ROM ドライブ	インストールまたは CD-ROM から直接起動するために必要
	ハードディスク	インストールに 10MB 以上
対応デバイス※4	ハードディスク/フロッピーディスクドライブ/MO ドライブ/ DVD・CD-ROM ドライブ※5/メモリーカードリーダー・ライター※6/ USB フラッシュメモリー等のリムーバブルデバイス	

※1 管理者(Administrator)権限を持つユーザーでログインしている必要があります。

※2 Internet Explorer 5 以上が必要です。

※3 ハードディスクをスキャンする際は、512M バイト以上推奨。

※4 ●回収したいファイルがあるデバイスとは別に、ファイルを保存するためのデバイスが必要です。

●対応 OS から正常に認識できないデバイスからのファイル検出は行えません。

●Windows Me/Windows 98(98 SE 含む)では以下のデバイスを回収元ドライブとして選択できません。

OS	対応デバイス制限事項
Windows Me	ノート PC 等の PC カードスロットに接続された ATA カード(PC カードアダプターを含む)/内蔵ハードディスクドライブ
Windows 98(98 SE 含む)	ノート PC 等の PC カードスロットに接続された ATA カード(PC カードアダプターを含む)/内蔵ハードディスクドライブ/USB 接続フロッピーディスクドライブ/USB フラッシュメモリー/USB メモリーカードリーダー・ライター

●OS 標準の IDE ドライバ以外のドライバをインストールした環境では、ドライブのスキャンができない場合があります。OS 標準の IDE ドライバをご使用になることをお勧めします。

※5 データ領域の一部が傷ついたメディアの正常な領域のデータや、パケットライトフォーマット(B's Clip にて確認)された CD-R/RW、DVD±R/RW メディアで誤削除したデータの復旧が可能です。広範囲の傷や管理領域の傷があるもの、初期化やフォーマットしてしまった CD-RW/DVD±RW メディアからのデータの回収は行えません。

※6 ノートパソコン等に内蔵された一部のメモリアダプターは、回収元ドライブとして選択できない場合があります。

◇CD から直接起動して使用する場合

対応機種	パソコン※1	CD-ROM からの起動をサポートした DOS/V マシン
	CPU	Pentium III 500MHz 以上
	メモリ※2	256M バイト以上（512M バイト以上推奨）
	ディスプレイ	800×600 ピクセル　16bit 以上の解像度
	CD-ROM ドライブ	本ソフトウェア起動のために必要
	USB ポート	ファイルを回収するデバイスを接続するために必要
対応デバイス	回収元デバイス※3	パラレル ATA 接続ハードディスク/シリアル ATA 接続ハードディスク/SCSI 接続ハードディスク
	保存先デバイス	FAT フォーマット済みの以下の USB 接続ストレージデバイス フロッピーディスクドライブ/MO ドライブ/ USB フラッシュメモリー/ハードディスク

※1 Intel ICH8 チップセットを搭載したパソコンでは、パラレル ATA 接続の CD/DVD ドライブからの起動（ブート）は行えません。

※2 全てメモリー上で作業するため、メモリーが不足すると正常に動作しない場合があります。

※3 RAID コントローラに接続されたハードディスクは除く。

ご使用上の注意

本ソフトウェアをご利用になる前に、以下の注意事項を必ずお読みください。



注意！

■回収したいファイルがあるドライブに書き込み操作を行わないでください。
ファイルを正常に回収できる可能性が低くなってしまいます。
誤操作によるファイル消去やディスク破損が発生した場合、その状態を保持することで被害を最小限に食い止められます。

■本ソフトウェア使用時には、他アプリケーションを起動しないでください。
回収したいファイルのあるドライブへの書き込み操作をする可能性があります。また、エクスプローラを操作する、Windows を再起動する等の操作を行った場合にもドライブへの書き込みが発生する可能性があります。

■回収元ドライブと保存先ドライブは別の物理ドライブを選択してください。
回収元のデータを回収したファイルで上書きする可能性があります。
×・・・・回収元：リムーバブルディスク(D:¥)　保存先：D:¥
○・・・・回収元：リムーバブルディスク(D:¥)　保存先：C:¥

■消去した方法によってはファイルを検出できない場合があります。
誤操作によるファイル消去やドライブ消去を行ってしまった場合、その操作内容によってはファイルを検出できない場合があります。
・デジタルカメラのファイル消去やフォーマットは、メーカーや機種によって消去方法が異なるため、ファイルを検出できない場合があります。
・完全フォーマットやデータ消去ソフトによる完全消去を行った場合、ファイルを検出することはできません。

■本製品はドライブまたはメディアの破損を修復し、復旧させるものではありません。

■対応ではないドライブやそのメディアからのファイルの検出はできません。

■物理的に破損しているドライブまたはメディアからのファイルの検出はできません。破損したドライブに対して回収を試みた場合、予期せぬ現象が発生する可能性があります。

■ドライブまたはメディアの状態によってはファイルの検出はできません。
・書き込みに失敗した DVD/CD-R メディア等

■データベース方式でドライブをスキャンしファイルを検出する場合、対応拡張子ではないファイルを検出することはできません。
・DVD 規格における VR 形式のデータ等

■FAT 方式や NTFS 方式でファイルを検出する場合、対象のファイルシステム情報を持たないデバイスからのファイル検出はできません。

・FAT ファイルシステム情報をもつデバイスに対して NTFS 方式のファイルの検出を試みる等

■NTFS ファイルを回収する際、以下のファイルには対応しておりません。

・NTFS 暗号化ファイル

・NTFS 圧縮ファイル

※NTFS 圧縮ファイルとはファイルシステム上のファイル管理方法で、 ZIP ファイル等の圧縮ファイルとは異なるものです。NTFS 暗号化ファイルについても同様です。

■Windows 上で本ソフトウェアを利用する場合は、回収元デバイスを接続し、Windows 上でデバイスの認識を確認してから本ソフトウェアを起動してください。本ソフトウェア起動後に回収元デバイスを接続した場合は、本ソフトウェアを起動しなおしてください。

■ドライブ診断機能での診断結果は目安であり、ドライブの動作を保証するものではありません。

対応拡張子

スキャン方式の設定で「データベース方式」を選択した場合に検出可能な拡張子です。

（スキャン方式の設定については27ページまたは33ページ、47ページ参照）

拡張子	属性
txt	テキストファイル
htm	テキストファイル
rtf	リッチテキストファイル
pdf	ドキュメントファイル
mpg	圧縮動画ファイル
jpg	圧縮画像ファイル
tif	画像ファイル
gif	圧縮画像ファイル
png	圧縮画像ファイル
ppt	パワーポイントファイル
doc	ドキュメントファイル
xls	エクセルファイル
avi	動画ファイル
rmi	ミディファイル
mid	ミディファイル
wav	オーディオファイル
bmp	画像ファイル
mp3	圧縮オーディオファイル
zip	圧縮ファイル
rm	動画ファイル
wmv	圧縮オーディオファイル
mov	動画ファイル
au	オーディオファイル
aif	オーディオファイル



注意！

■対応拡張子であっても検出されない場合があります。
■元のファイル名と異なるファイル名で検出される場合があります。
■元の拡張子と異なる拡張子で検出される場合があります。

MEMO

起動方法の選択

本ソフトウェアには 3 つの起動方法があります。

用途に合わせて選択してください。

起動方法		用途	ページ
Windows 上で起動	インストールしないで起動	Windows が正常に起動できる場合で、Windows がインストールされているドライブからファイルを回収する場合に有効な方法です。	17ページ
	インストールして起動	Windows が正常に起動できる場合で、Windows がインストールされているドライブ以外からファイルを回収する場合に有効な方法です。	19ページ
CD から直接起動		Windows が正常に起動できない場合で、Windows の入っていたハードディスクからファイルを回収する場合に有効な方法です。	43ページ



注意！

■Windows がインストールされているドライブのファイルを回収したい場合には、本ソフトウェアをインストールしないで起動、または CD から直接起動することをお勧めします。

■Windows 上でファイルを回収する場合は、回収元デバイスを接続し、Windows 上でデバイスの認識を確認してから本ソフトウェアを起動してください。本ソフトウェア起動後に回収元デバイスを接続した場合は、本ソフトウェアを起動しなおしてください。

■CD から直接起動する場合は、パソコンおよび CD-ROM ドライブが CD ブートに対応している必要があります。

MEMO

Windows 上で起動して使用する

起動する ……16
起動方法を選択し、本ソフトウェアを起動します。

インストールしないで起動する……17
インストールして起動する……19

検索・回収する ……24
用途に合わせて検索方法を選択し、
ファイルを検索・回収します。

簡単ファイル検索……26
マニュアル検索≪スキャン≫……31
マニュアル検索≪既存ファイルシステム解析≫…38

終了する ……42
本ソフトウェアを終了します。

起動する

本ソフトウェアを起動します。Windows 上では2つの起動方法があります。

【インストールしないで起動する】……17ページ

Windows が正常に起動できる場合で、Windows がインストールされているドライブからファイルを回収する場合に有効な方法です。

【インストールして起動する】……19ページ

Windows が正常に起動できる場合で、Windows がインストールされているドライブ以外からファイルを回収する場合に有効な方法です。



注意！

■本ソフトウェア使用時には、他アプリケーションを起動しないでください。
他アプリケーションが、回収したいファイルのあるドライブへの書き込み操作をする可能性があります。
エクスプローラを操作する、Windows を再起動する等の操作を行った場合にもドライブへの書き込みが発生する可能性があります。

■Windows がインストールされているドライブのファイルを回収したい場合には、本ソフトウェアをインストールしないで起動、または CD から直接起動することをお勧めします。

■Windows 上でファイルを回収する場合は、回収元デバイスを接続し、Windows 上でデバイスの認識を確認してから本ソフトウェアを起動してください。本ソフトウェア起動後に回収元デバイスを接続した場合は、本ソフトウェアを起動しなおしてください。

インストールしないで起動する

本ソフトウェアをインストールしないで起動することができます。

注意！

■Windows Vista™/Windows XP/Windows 2000 では、コンピュータの管理者のアカウント（Administrator 権限）でログオンしてください。

■パソコンの省電力機能やその他アプリケーションは全て無効/終了してください。

1 「DataSalvager Pro」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。

⇒自動的にCDメニューが表示されます。

参考①

自動的に CD メニューが表示されない場合は・・・

「DataSalvager Pro」CD-ROM の中にある[AUTORUN]アイコンをダブルクリックしてください。

参考②

Windows Vista™では以下の画面が表示されます。

[続行]ボタンをクリックしてください。

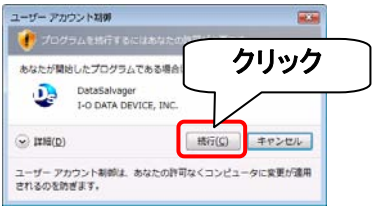


2 [インストールをしないで実行]ボタンをクリックします。



参考

Windows Vista™では以下の画面が表示されます。
[続行]ボタンをクリックしてください。



本ソフトウェアが起動しました。
【検索・回収する】(24ページ)へお進みください。

インストールして起動する

本ソフトウェアをパソコンにインストールして、[スタート]メニューから起動することができます。

注意！

■Windows Vista™/Windows XP/Windows 2000 では、コンピュータの管理者のアカウント（Administrator 権限）でログオンしてください。

■本ソフトウェアのインストール先ドライブは、回収したいファイルが存在しないドライブを選択してください。回収したいファイルが存在するドライブにインストールを実行すると、ファイルを回収できる可能性が非常に低くなります。

1 「DataSalvager Pro」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。

⇒自動的にCDメニューが表示されます。

参考①

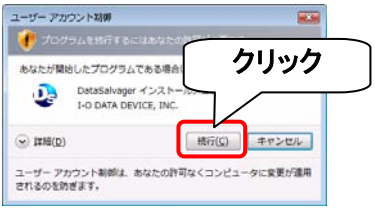
自動的に CD メニューが表示されない場合は・・・

「DataSalvager Pro」CD-ROM の中にある[AUTORUN]アイコンをダブルクリックしてください。

参考②

Windows Vista™では以下の画面が表示されます。

[続行]ボタンをクリックしてください。

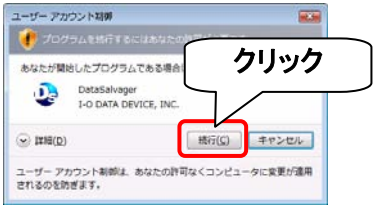


2 [インストール]ボタンをクリックします。



参考

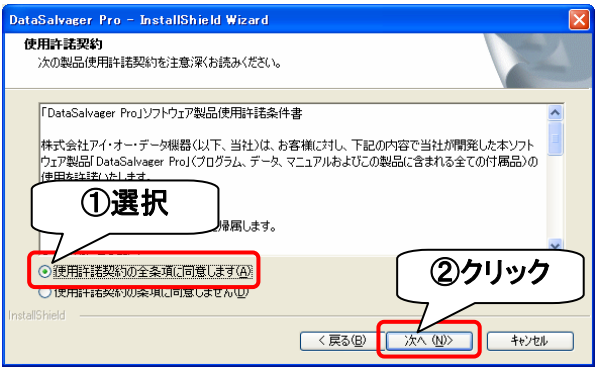
Windows Vista™では以下の画面が表示されます。
[続行]ボタンをクリックしてください。



3 [次へ]ボタンをクリックします。



4 同意する場合は、[使用許諾契約の前条項に同意します]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。



注意！

使用許諾契約について
本ソフトウェアをインストールするには同意が必要です。

5 [インストール]ボタンをクリックします。
→インストールを開始します。



注意！

本ソフトウェアのインストール先ドライブは、回収したいファイルが存在しないドライブを選択してください。回収したいファイルが存在するドライブにインストールを実行すると、ファイルを回収できる可能性が非常に低くなります。

6 [完了]ボタンをクリックします。



7 [スタート]→[(すべての)プログラム]→[I-O DATA]→[DataSalvager Pro]→[DataSalvager Pro]の順にクリックし、起動します。

▼画面は Windows XP での例です。



参考

Windows Vista™では DataSalvager の起動画面が出る前にユーザーアカウント制御の画面が表示されます。
[続行]ボタンをクリックしてください。



本ソフトウェアが起動しました。
【検索・回収する】(次ページ)へお進みください。

検索・回収する

ファイルを検索し、回収します。検索には以下の 3 つの方法があります。

【簡単ファイル検索】……26ページ

手順を追って検索します。ドライブ全体をスキャンして解析することでファイルを検出します。

以下のような場合には、こちらの方法がお勧めです。

・ディスクを誤ってフォーマットした場合

・エクスプローラからディスクが認識できなくなった場合

・【マニュアル検索≪既存ファイルシステム解析≫】でファイルが検出できなかった場合

【マニュアル検索≪スキャン≫】……31ページ

【簡単ファイル検索】を利用せず、ドライブまたはパーティション全体をスキャンして解析することでファイルを検出します。

以下のような場合には、こちらの方法がお勧めです。

・ディスクを誤ってフォーマットした場合

・エクスプローラからディスクが認識できなくなった場合

・【マニュアル検索≪既存ファイルシステム解析≫】でファイルが検出できなかった場合

【マニュアル検索≪既存ファイルシステム解析≫】……38ページ

既存ファイルシステムを解析し、ディレクトリの構成そのままで削除ファイルを検出することが出来ます。

ドライブ全体を解析する必要が無く、エクスプローラ感覚でファイルを検索するため解析時間が短く、フォルダ構造を見ながら検索することができます。またファイル名や日付、属性等も復元することが可能です。

ただし、回収したいファイルを書き込んだ時のファイルシステムが、FAT ファイルシステムである必要があります。

※対応ファイルシステムは FAT12、FAT16、FAT32 です。

※検出できるファイルの拡張子に制限はありません。

以下のような場合には、こちらの方法がお勧めです。

・最近、誤削除してしまったファイルを手早く回収したい場合

・【対応拡張子】（11ページ）にのっていない拡張子のファイルを回収する場合



注意！

本ソフトウェアの起動・使用時には、必ず9ページ【ご使用上の注意】もご覧ください。

■回収したいファイルがあるドライブに書き込み操作を行わないでください。
■本ソフトウェア使用時には、他アプリケーションを起動しないでください。
■回収元ドライブと保存先ドライブは別の物理ドライブを選択してください。
■消去した方法によってはファイルを検出できない場合があります。
■本製品はドライブまたはメディアの破損を修復し、復旧させるものではありません。
■デバイスが対応していないメディアからのファイルの検出はできません。
■物理的に破損しているドライブまたはメディアからのファイルの検出はできません。
■ドライブまたはメディアの状態によってはスキャンできない場合があります。

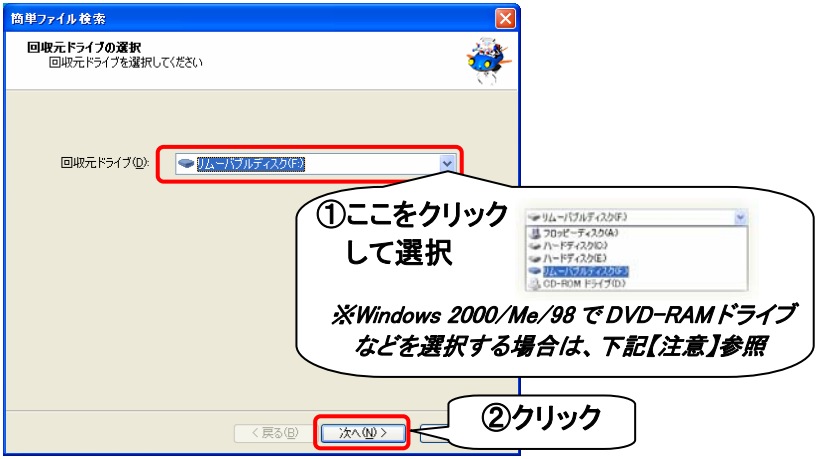
簡単ファイル検索

手順を追って検索します。ドライブ全体をスキャンして解析することでファイルを検出します。また、ファイルシステムを指定して、ドライブまたはパーティションのみをスキャンする設定もおこなえます。

1 起動画面の[簡単ファイル検索]ボタンをクリックします。



2 [回収元ドライブ]をクリックし、回収元のドライブを選択します。
[次へ]ボタンをクリックします。



注意！

Windows 2000/Me/98 で DVD-RAM などを[回収元ドライブ]に選択する場合

DVD-RAM ドライブなどによっては、[回収元ドライブ]に[CD-ROM]という表示が2つ表示される場合があります。ドライブの選択を間違えないようご注意ください。

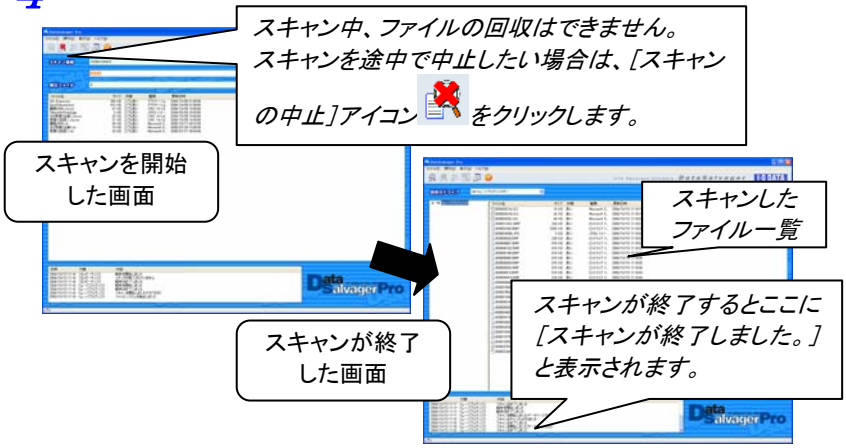
（例：DVD-RAM ドライブの場合･･･[CD-ROM]と[リムーバブルディスク]の2つのドライブが表示されます。）

3 検索するファイルの種類を選択し、[完了]ボタンをクリックします。→スキャンを開始します。



全て	全てのファイルを検索します。	
選択	画像	画像ファイルを検索します。
	動画	動画ファイルを検索します。
	音楽	音楽ファイルを検索します。
	Office	Office ファイルを検索します。
	拡張子を指定	検索したいファイルの拡張子を任意に指定します。複数の拡張子を指定する場合は、『, 』(カンマ)で区切ります。

4 スキャン結果が表示されます。



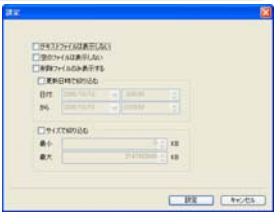
参考①

ドライブのスキャンに要する時間は環境、メディア(ドライブ)容量、デバイスの接続方式等によって異なります。以下は目安時間です。

・フラッシュメモリ(256MB、USB 2.0 カードリーダー接続)・・・約 2～3 分

参考②

[設定]アイコン をクリックすると、設定画面が表示され、ファイルの表示設定がおこなえます。
必要なファイルを絞り込みたい場合や、検出されたファイルの数が多すぎる場合に設定します。



テキストファイルは表示しない	テキストファイルが表示されなくなります。大量のテキストファイルが表示されている場合に表示を消すことができます。
空のファイルは表示しない	0KB のファイルが表示されなくなります。0KB のファイルが大量に表示されている場合に表示を消すことができます。
削除ファイルのみ表示する	通常のファイルは表示されなくなり、削除されたファイルのみが表示されるようになります。
更新日時で絞り込む	設定した更新日時の範囲のファイルのみが表示されます。 をクリックし、カレンダーから日付を選択することもできます。 *※「データーベース方式」で検出する場合は更新日時を取得できません。*
サイズで絞り込む	設定したサイズ範囲のファイルのみが表示されます。



5 [ファイルの選択]ウィンドウから回収したいファイルを探します。ファイル名をクリックし(複数選択可)、「ファイルの回収」アイコン をクリックします。



参考①

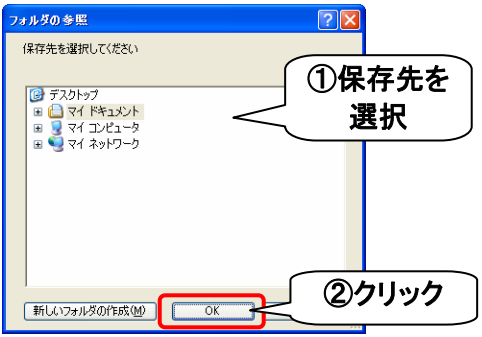
ファイルの[状態]によっては正常に復元できない場合があります。

ファイルの[状態]	概要
空のファイル	ファイルの中身が空のもの。空のファイルとして正常に復元できます。
とても良い	ファイルは削除されておらず断片化情報も残っており、正常に復元できる可能性がとても高いものです。
良い	削除されているが断片化情報が残っており、別のデータで上書きされていなければ、正常に復元できる可能性が高いものです。
やや悪い	削除されていないが断片化情報が残っていない状態。断片化していないファイルであれば正常に復元できる可能性があるものです。
悪い	削除されており断片化情報も残っていない状態。断片化しておらず、別のデータで上書きされていなければ、正常に復元できる可能性があるものです。
とても悪い	削除されており断片化情報も残っていない状態。また、ファイルの長さとデータの長さが一致していないため、断片化しているかデータが上書きされている可能性が高く、正常に復元できる可能性が低いものです。
NTFS ファイル	NTFSファイルシステム上のファイルで、断片化情報が残っている状態。別のデータで上書きされていなければ、正常に復元できる可能性が高いものです。

参考②

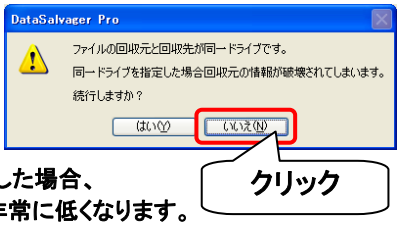
[ダンプ]アイコン  をクリックすると、選択されたファイルの先頭を確認できます。

6 ファイルの保存先を選択し、[OK]ボタンをクリックします。

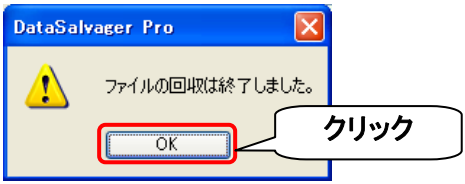


注意！

ファイルの保存先を回収元と同じデバイスにすると、右のメッセージが表示されます。
[いいえ]を選択し、ファイルの保存先は回収元と別のデバイスを選択してください。[はい]を選択して回収を続行した場合、ファイルを正常に回収できる可能性が非常に低くなります。



7 [OK]ボタンをクリックします。



以上で[簡単ファイル検索]によるファイルの回収は終了です。

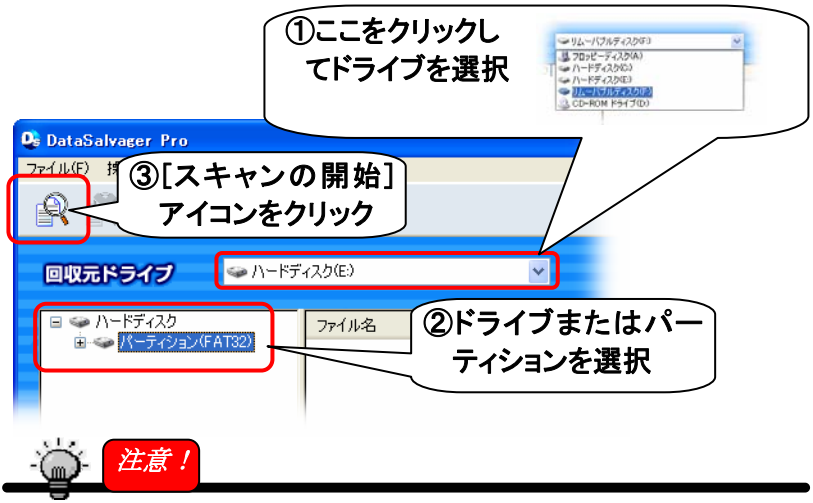
マニュアル検索≪スキャン≫

【簡単ファイル検索】を利用せず、ドライブまたはパーティション全体をスキャンして解析することでファイルを検出します。

1 起動画面の[マニュアル検索]ボタンをクリックします。



2 ①[回収元ドライブ]で回収元のドライブを選択します。
②ドライブまたはパーティションを選択します。
③[スキャンの開始]アイコン をクリックします。



注意！

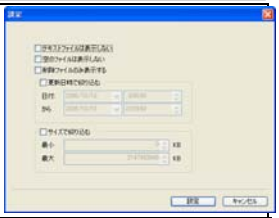
Windows 2000/Me/98 で DVD-RAM などを[回収元ドライブ]に選択する場合

DVD-RAM ドライブなどによっては、[回収元ドライブ]に[CD-ROM]という表示が2つ表示される場合があります。ドライブの選択を間違えないようご注意ください。

（例：DVD-RAM ドライブの場合・・・[CD-ROM]と[リムーバブルディスク]の2つのドライブが表示されます。）

参考

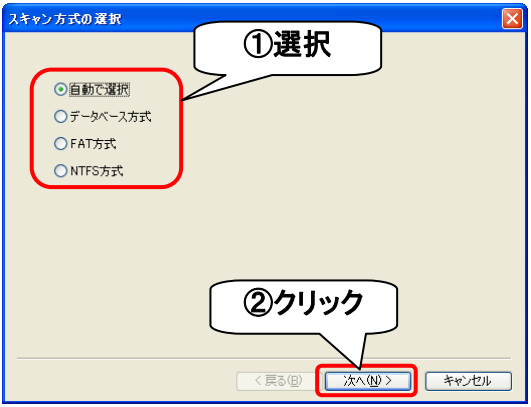
［設定］アイコン をクリックすると、設定画面が表示され、ファイルの表示設定がおこなえます。
必要なファイルを絞り込みたい場合や、検出されたファイルの数が多すぎる場合に設定します。



テキストファイルは表示しない	テキストファイルが表示されなくなります。大量のテキストファイルが表示されている場合に表示を消すことができます。
空のファイルは表示しない	0KB のファイルが表示されなくなります。0KB のファイルが大量に表示されている場合に表示を消すことができます。
削除ファイルのみ表示する	通常のファイルは表示されなくなり、削除されたファイルのみが表示されるようになります。
更新日時で絞り込む	設定した更新日時の範囲のファイルのみが表示されます。 をクリックし、カレンダーから日付を選択することもできます。 *※「データーベース方式」で検出する場合は更新日時を取得できません。*
サイズで絞り込む	設定したサイズ範囲のファイルのみが表示されます。

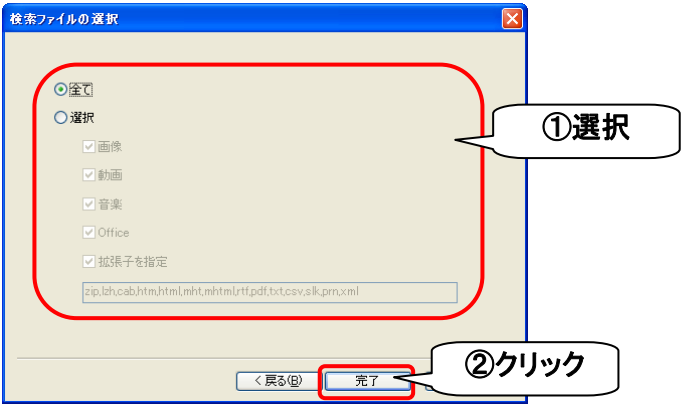


3 スキャン方式を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。



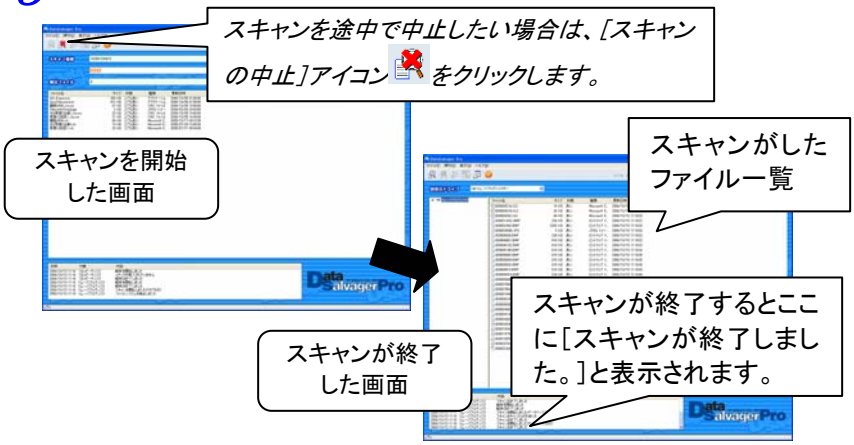
自動で選択	スキャン方式をデータベース方式/FAT 方式/NTFS 方式から自動的に選択します。 *※ファイル名やファイルの日付、属性等ファイルシステムが持つ情報を復元できない場合があります。* *※設定で[更新日時]の設定をおこなっても無効となる場合があります。*
データベース方式	ファイルのデータベースを利用して、対応する拡張子のファイルを検出します。ファイル名等を復元することや、データベースに無いファイルを検出することは出来ませんが、ファイルシステムに関係なく復元可能です。 *※ファイル名やファイルの日付、属性等ファイルシステムが持つ情報は復元できません。* *※検出可能な対応拡張子については、【対応拡張子】（11ページ）参照。* *※設定で[更新日時]の設定をおこなっても無効となります。*
FAT 方式	FAT ファイルシステムの情報を利用してファイルを検出します。ファイル名や日付、属性等の情報も復元すること可能です。 ただし、回収したいファイルを書き込んだ時のファイルシステムが、FAT ファイルシステムである必要があります。
NTFS 方式	NTFS ファイルシステムの情報を利用してファイルを検出します。ファイル名や日付、属性等の情報も復元すること可能です。 ただし、回収したいファイルを書き込んだ時のファイルシステムが、NTFS ファイルシステムである必要があります。

4 検索するファイルの種類を選択し、[完了]ボタンをクリックします。→スキャンを開始します。



全て	全てのファイルを検索します。	
選択	画像	画像ファイルを検索します。
	動画	動画ファイルを検索します。
	音楽	音楽ファイルを検索します。
	Office	Office ファイルを検索します。
	拡張子を指定	検索したいファイルの拡張子を任意に指定します。 複数の拡張子を指定する場合は、『, 』(カンマ)で区切ります。

5 スキャン結果が表示されます。

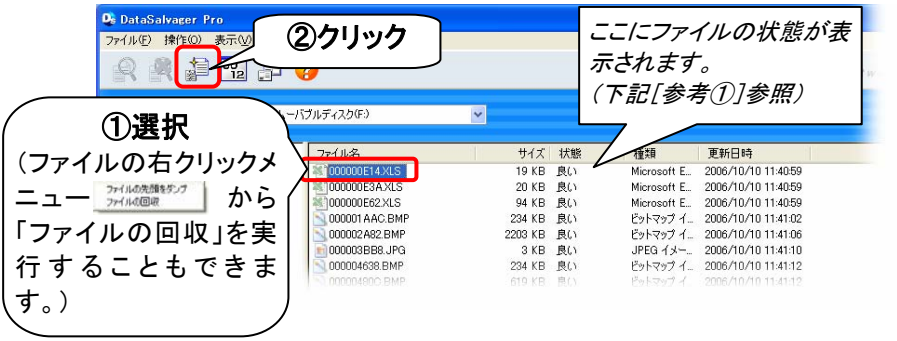


参考

ドライブのスキャンに要する時間は環境、メディア(ドライブ)容量、デバイスの接続方式等によって異なります。以下は目安時間です。

・フラッシュメモリ(256MB、USB 2.0 カードリーダー接続)・・・約 2～3 分

6 [ファイルの選択]ウィンドウから回収したいファイルを探します。ファイル名をクリックし(複数選択可)、「ファイルの回収」アイコン をクリックします。



参考①

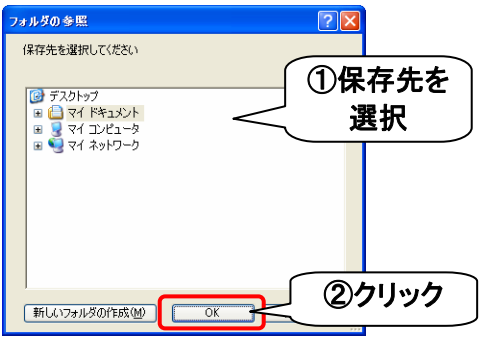
ファイルの[状態]によっては正常に復元できない場合があります。

ファイルの[状態]	概要
空のファイル	ファイルの中身が空のもの。空のファイルとして正常に復元できます。
とても良い	ファイルは削除されておらず断片化情報も残っており、正常に復元できる可能性がとても高いものです。
良い	削除されているが断片化情報が残っており、別のデータで上書きされていなければ、正常に復元できる可能性が高いものです。
やや悪い	削除されていないが断片化情報が残っていない状態。断片化していないファイルであれば正常に復元できる可能性があるものです。
悪い	削除されており断片化情報も残っていない状態。断片化しておらず、別のデータで上書きされていなければ、正常に復元できる可能性があるものです。
とても悪い	削除されており断片化情報も残っていない状態。また、ファイルの長さとデータの長さが一致していないため、断片化しているかデータが上書きされている可能性が高く、正常に復元できる可能性が低いものです。
NTFS ファイル	NTFSファイルシステム上のファイルで、断片化情報が残っている状態。別のデータで上書きされていなければ、正常に復元できる可能性が高いものです。

参考②

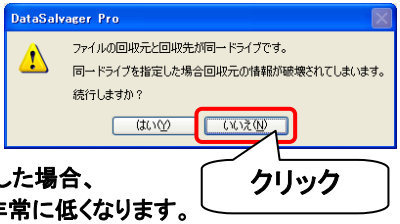
[ダンプ]アイコン をクリックすると、選択されたファイルの先頭を確認できます。

7 ファイルの保存先を選択し、[OK]ボタンをクリックします。

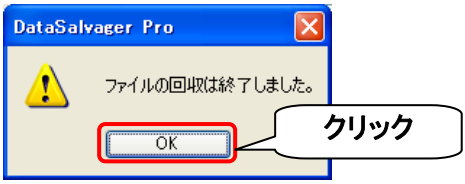


注意！

ファイルの保存先を回収元と同じデバイスにすると、右のメッセージが表示されます。
[いいえ]を選択し、ファイルの保存先は回収元と別のデバイスを選択してください。[はい]を選択して回収を続行した場合、ファイルを正常に回収できる可能性が非常に低くなります。



8 [OK]ボタンをクリックします。



以上で[マニュアル検索≪スキャン≫]によるファイルの回収は終了です。

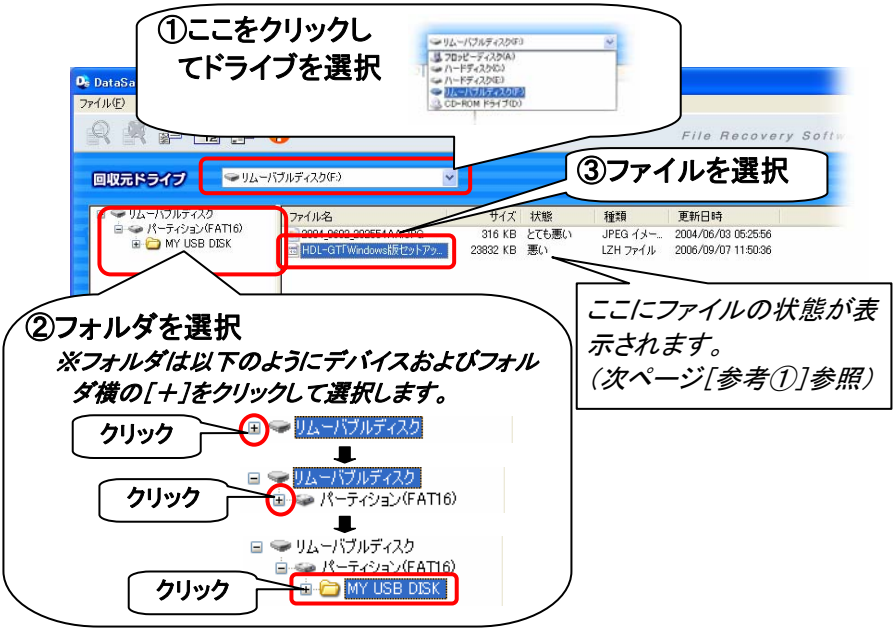
マニュアル検索≪既存ファイルシステム解析≫

既存ファイルシステムを解析し、ディレクトリの構成そのままで削除ファイルを検出することが出来ます。
ドライブ全体を解析する必要が無く、エクスプローラ感覚でファイルを検索するため解析時間が短く、フォルダ構造を見ながら検索することができます。またファイル名や日付、属性等も復元することが可能です。
ただし、回収したいファイルを書き込んだ時のファイルシステムが、FAT ファイルシステムである必要があります。
※対応ファイルシステムは FAT12、FAT16、FAT32 です。
※検出できるファイルの拡張子に制限はありません。

1 起動画面の[マニュアル検索]ボタンをクリックします。



2 ①[回収元ドライブ]で回収元のドライブを選択します。
②回収元のフォルダを選択します。
③回収したいファイルを探し、選択します。(複数選択可)



参考①

ファイルの[状態]によっては正常に復元できない場合があります。

ファイルの[状態]	概要
空のファイル	ファイルの中身が空のもの。空のファイルとして正常に復元できます。
とても良い	ファイルは削除されておらず断片化情報も残っており、正常に復元できる可能性がとても高いものです。
良い	削除されているが断片化情報が残っており、別のデータで上書きされていなければ、正常に復元できる可能性が高いものです。
やや悪い	削除されていないが断片化情報が残っていない状態。断片化していないファイルであれば正常に復元できる可能性があるものです。
悪い	削除されており断片化情報も残っていない状態。断片化しておらず、別のデータで上書きされていなければ、正常に復元できる可能性があるものです。
とても悪い	削除されており断片化情報も残っていない状態。また、ファイルの長さとデータの長さが一致していないため、断片化しているかデータが上書きされている可能性が高く、正常に復元できる可能性が低いものです。
NTFS ファイル	NTFSファイルシステム上のファイルで、断片化情報が残っている状態。別のデータで上書きされていなければ、正常に復元できる可能性が高いものです。

参考②

[設定]アイコンをクリックすると、設定画面が表示され、ファイルの表示設定がおこなえます。必要なファイルを絞り込みたい場合や、検出されたファイルの数が多すぎる場合に設定してください。

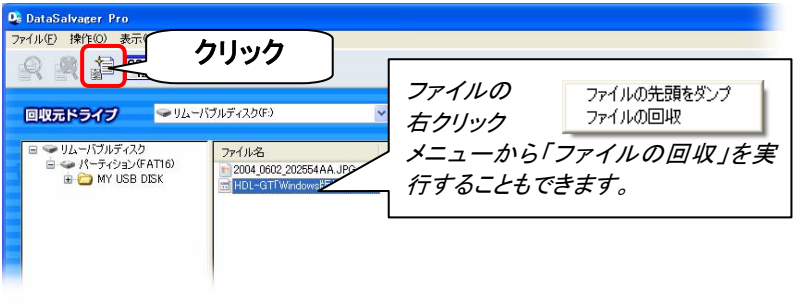


テキストファイルは表示しない	テキストファイルが表示されなくなります。大量のテキストファイルが表示されている場合に表示を消すことができます。
空のファイルは表示しない	0KB のファイルが表示されなくなります。0KB のファイルが大量に表示されている場合に表示を消すことができます。
削除ファイルのみ表示する	通常のファイルは表示されなくなり、削除されたファイルのみが表示されるようになります。
更新日時で絞り込む	設定した更新日時の範囲のファイルのみが表示されます。
サイズで絞り込む	設定したサイズ範囲のファイルのみが表示されます。

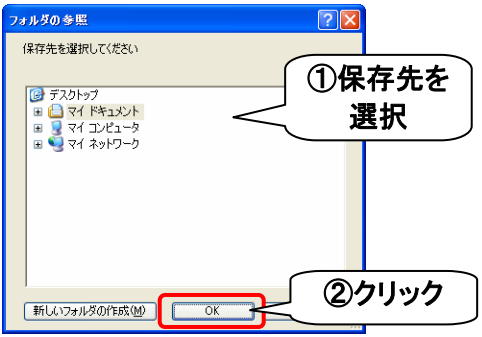
参考③

[ダンプ]アイコン をクリックすると、選択されたファイルの先頭を確認できます。

3 「ファイルの回収」アイコン をクリックします。

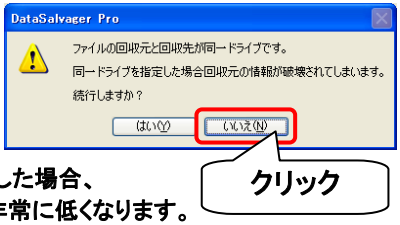


4 ファイルの保存先を選択し、[OK]ボタンをクリックします。

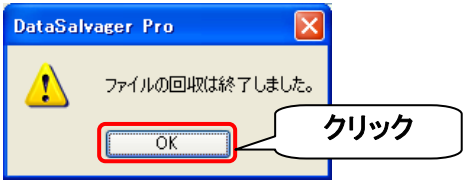


注意！

ファイルの保存先を回収元と同じデバイスにすると、右のメッセージが表示されます。
[いいえ]を選択し、ファイルの保存先は回収元と別のデバイスを選択してください。[はい]を選択して回収を続行した場合、ファイルを正常に回収できる可能性が非常に低くなります。



5 [OK]ボタンをクリックします。



以上で[マニュアル検索≪既存ファイルシステム≫]によるファイルの回収は終了です。

終了する

本ソフトウェアを終了する手順を説明します。

1 [ファイル]メニュー→[アプリケーションの終了]の順にクリック、またはボタンをクリックします。



以上で本ソフトウェアは終了しました。

CD から直接起動して使用する

起動する ……44
本ソフトウェアを CD から直接起動します。

検索・回収する ……45
用途に合わせて検索方法を選択し、
ファイルを検索・回収します。

マニュアル検索≪スキャン≫ ……46
マニュアル検索≪既存ファイルシステム解析≫…52
【参考】ドライブ診断機能 ……56

終了する ……58
本ソフトウェアを終了します。

起動する

Windows を起動せずに、CD から直接本ソフトウェアを起動します。

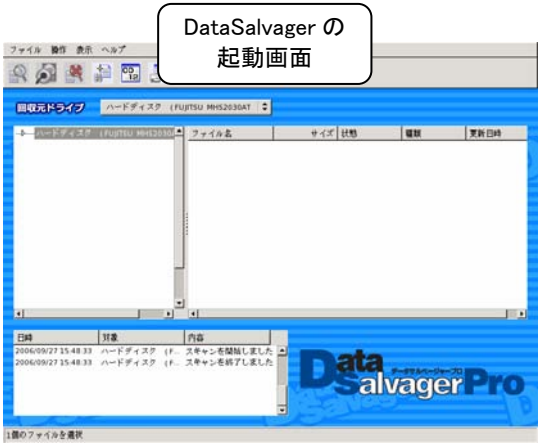
注意！

パソコンおよび CD-ROM ドライブが CD ブートに対応している必要があります。

1 「DataSalvager Pro」CD-ROMを入れたままパソコンの電源を入れます。
⇒自動的に本ソフトウェアが起動します。

参考

CD から直接起動できない場合は、66ページ【困ったときには】[CD からブート（起動）できない]を参照してください。



本ソフトウェアが起動しました。
【検索・回収する】（次ページ）へお進みください。

検索・回収する

ファイルを検索します。検索には以下の 2 つの方法があります。

【マニュアル検索≪スキャン≫】……31ページ

ドライブまたはパーティション全体をスキャンして解析することでファイルを検出します。以下のような場合には、こちらの方法がお勧めです。

・ディスクを誤ってフォーマットした場合

・エクスプローラからディスクが認識できなくなった場合

・【マニュアル検索≪既存ファイルシステム解析≫】でファイルが検出できなかった場合

【マニュアル検索≪既存ファイルシステム解析≫】……38ページ

既存ファイルシステムを解析し、ディレクトリの構成そのままで削除ファイルを検出することが出来ます。

ドライブ全体を解析する必要が無く、エクスプローラ感覚でファイルを検索するため解析時間が短く、フォルダ構造を見ながら検索することができます。またファイル名や日付、属性等も復元することが可能です。

ただし、回収したいファイルを書き込んだ時のファイルシステムが、FAT ファイルシステムである必要があります。

※対応ファイルシステムは FAT12、FAT16、FAT32 です。

※検出できるファイルの拡張子に制限はありません。

以下のような場合には、こちらの方法がお勧めです。

・最近、誤削除してしまったファイルを手早く回収したい場合

・【対応拡張子】（11ページ）にのっていない拡張子のファイルを回収する場合



注意！

本ソフトウェアの起動・使用時には、必ず9ページ【ご使用上の注意】もご覧ください。

■回収したいファイルがあるドライブに書き込み操作を行わないでください。

■回収元ドライブと保存先ドライブは別の物理ドライブを選択してください。また、保存先ドライブについては8ページ［CD から直接使用して使用する場合］の「対応デバイス」をご覧ください。

■消去した方法によってはファイルを検出できない場合があります。

■本製品はドライブの破損を修復し、復旧させるものではありません。

■デバイスが対応していないメディアからのファイルの検出はできません。

■物理的に破損しているドライブからのファイルの検出はできません。

■ドライブの状態によってはスキャンできない場合があります。

マニュアル検索≪スキャン≫

ドライブまたはパーティション全体をスキャンして解析することでファイルを検出します。

1 ①[回収元ドライブ]でドライブを選択します。
②ディレクトリツリーからもドライブを選択します。
③[スキャンの開始]アイコン をクリックします。



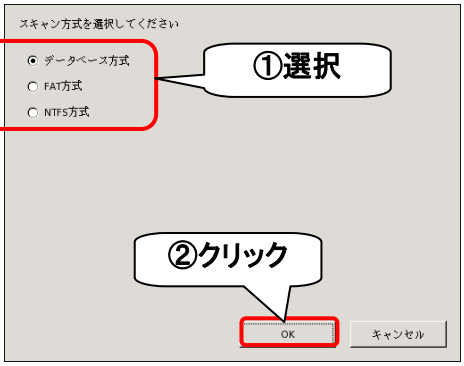
参考

[設定]アイコン をクリックすると、設定画面が表示され、ファイルの表示設定がおこなえます。
必要なファイルを絞り込みたい場合や、検出されたファイルの数が多すぎる場合に設定します。



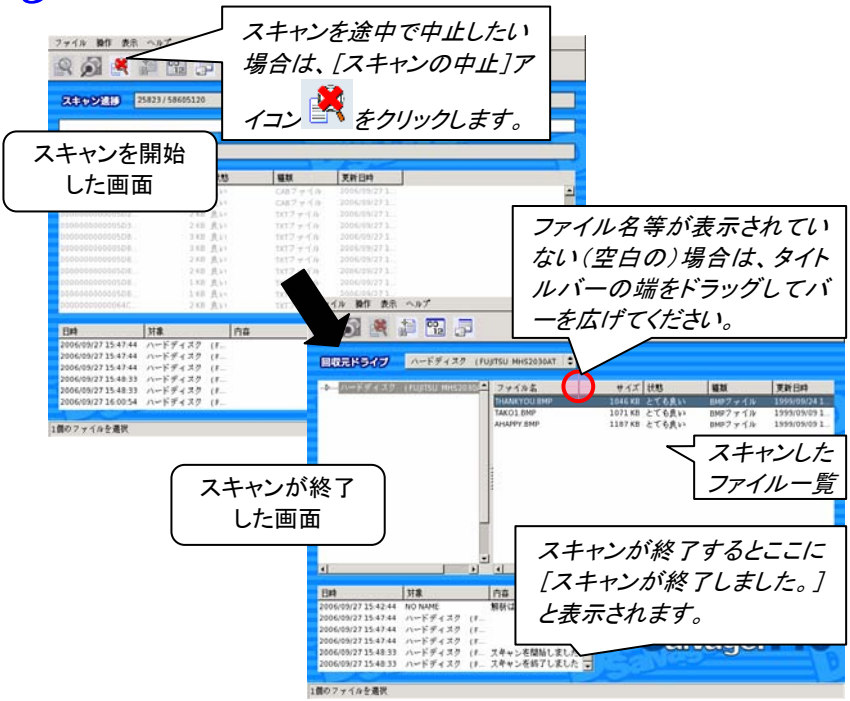
テキストファイルは表示しない	テキストファイルが表示されなくなります。大量のテキストファイルが表示されている場合に表示を消すことができます。
空のファイルは表示しない	0KB のファイルが表示されなくなります。0KB のファイルが大量に表示されている場合に表示を消すことができます。
削除ファイルのみ表示する	通常のファイルは表示されなくなり、削除されたファイルのみが表示されるようになります。
更新日時で絞り込む	設定した更新日時の範囲のファイルのみが表示されます。[▼]をクリックし、カレンダーから日付を選択してください。 *※「データーベース方式」で検出する場合は更新日時を取得できません。*
サイズで絞り込む	設定したサイズ範囲のファイルのみが表示されます。

2 スキャン方式を選択し、[OK]ボタンをクリックします。
→スキャンを開始します。



データベース方式	ファイルのデータベースを利用して、対応する拡張子のファイルを検出します。ファイル名等を復元することや、データベースに無いファイルを検出することは出来ませんが、ファイルシステムに関係なく復元可能です。 *※ファイル名やファイルの日付、属性等ファイルシステムが持つ情報は復元できません。* *※検出可能な対応拡張子については、【対応拡張子】（11ページ）参照。* *※設定で[更新日時]の設定をおこなっても無効となります。*
FAT 方式	FAT ファイルシステムの情報を利用してファイルを検出します。ファイル名や日付、属性等の情報も復元すること可能です。 ただし、回収したいファイルを書き込んだ時のファイルシステムが、FAT ファイルシステムである必要があります。
NTFS 方式	NTFS ファイルシステムの情報を利用してファイルを検出します。ファイル名や日付、属性等の情報も復元すること可能です。 ただし、回収したいファイルを書き込んだ時のファイルシステムが、NTFS ファイルシステムである必要があります。

3 スキャン結果が表示されます。

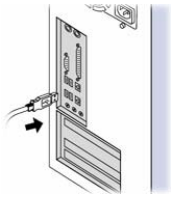


参考

ドライブのスキャンに要する時間は環境、ドライブ容量、デバイスの接続方式等によって異なります。以下は目安時間です。

・パラレル接続ハードディスク 40GB・・・約 4 時間

4 ファイルの保存先に使用するデバイスを
パソコンに接続します。



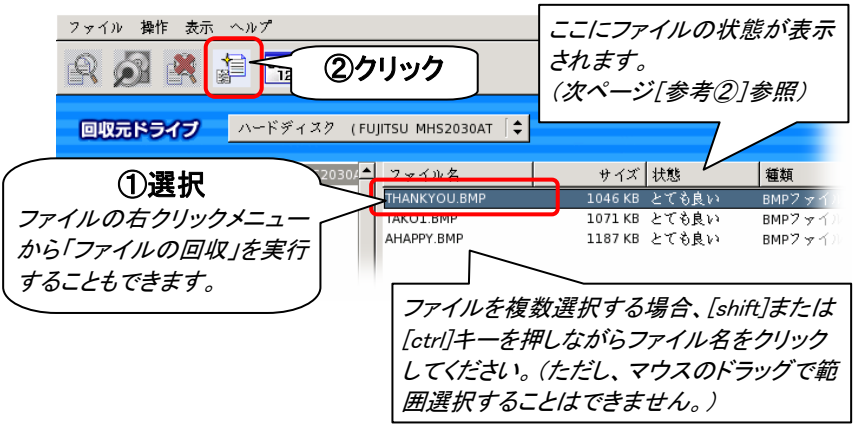
参考

保存先にはFATフォーマット済みの以下のUSB接続ストレージデバイスのみ使用できます。デバイスのアクセスランプ等を確認し、デバイスが認識されるまでしばらくお待ちください。

フロッピーディスクドライブ/USBフラッシュメモリー/MOドライブ/ハードディスク

5 [ファイルの選択]ウィンドウから回収したいファイルを探します。
ファイル名をクリックし(複数選択可)、「ファイルの回収」アイコン

をクリックします。



参考①

[ダンプ]アイコン  をクリックすると、選択されたファイルの先頭を確認できます。

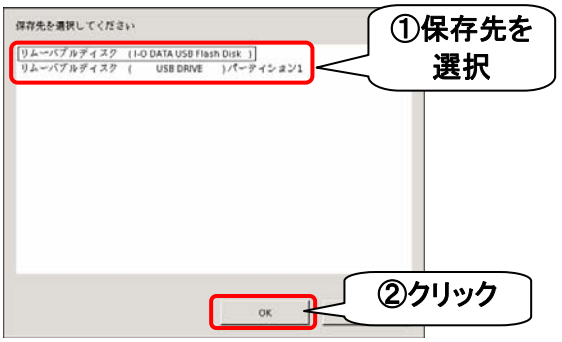


参考②

ファイルの[状態]によっては正常に復元できない場合があります。

ファイルの[状態]	概要
空のファイル	ファイルの中身が空のもの。空のファイルとして正常に復元できます。
とても良い	ファイルは削除されておらず断片化情報も残っており、正常に復元できる可能性がとても高いものです。
良い	削除されているが断片化情報が残っており、別のデータで上書きされていなければ、正常に復元できる可能性が高いものです。
やや悪い	削除されていないが断片化情報が残っていない状態。断片化していないファイルであれば正常に復元できる可能性があるものです。
悪い	削除されており断片化情報も残っていない状態。断片化しておらず、別のデータで上書きされていなければ、正常に復元できる可能性があるものです。
とても悪い	削除されており断片化情報も残っていない状態。また、ファイルの長さとデータの長さが一致していないため、断片化しているかデータが上書きされている可能性が高く、正常に復元できる可能性が低いものです。
NTFS ファイル	NTFSファイルシステム上のファイルで、断片化情報が残っている状態。別のデータで上書きされていなければ、正常に復元できる可能性が高いものです。

6 ファイルの保存先を選択し、[OK]ボタンをクリックします。
※保存先デバイスに「DataSalvagerFiles」フォルダが作成され、
そのフォルダ内に回収したファイルが保存されます。



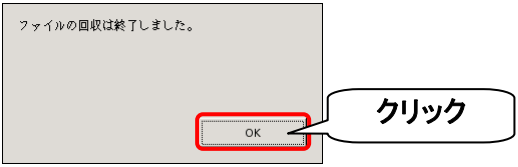
参考①

保存先にはFATフォーマット済みの以下のUSB接続ストレージデバイスのみ使用できます。
フロッピーディスクドライブ/USBフラッシュメモリー/MOドライブ/ハードディスク

参考②

「ファイルを保存できるUSBデバイスが接続されていません。」と表示される場合は、66ページ【困ったときには】「保存先デバイスが認識されない(「ファイルを保存できるUSBデバイスが接続されていません。」と表示される」をご覧ください。

7 [OK]ボタンをクリックします。



以上で[マニュアル検索≪スキャン≫によるファイルの回収は終了です。

マニュアル検索≪既存ファイルシステム解析≫

既存ファイルシステムを解析し、ディレクトリの構成そのままで削除ファイルを検出することが出来ます。

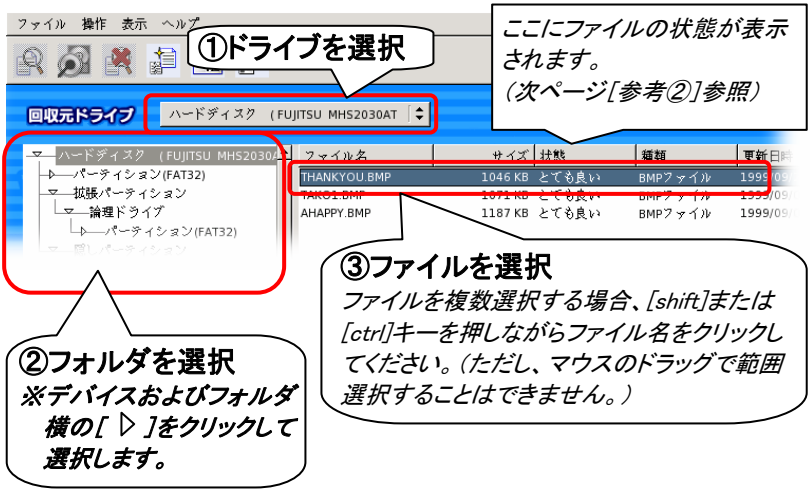
ドライブ全体を解析する必要が無く、エクスプローラ感覚でファイルを検索するため解析時間が短く、フォルダ構造を見ながら検索することができます。またファイル名や日付、属性等も復元することが可能です。

ただし、回収したいファイルを書き込んだ時のファイルシステムが、FAT ファイルシステムである必要があります。

※対応ファイルシステムは FAT12、FAT16、FAT32 です。

※検出できるファイルの拡張子に制限はありません。

1 ①[回収元ドライブ]で回収元のドライブを選択します。
②回収元のフォルダを選択します。
③回収したいファイルを探し、選択します。(複数選択可)



参考①

ファイルの[状態]によっては正常に復元できない場合があります。

ファイルの[状態]	概要
空のファイル	ファイルの中身が空のもの。空のファイルとして正常に復元できます。
とても良い	ファイルは削除されておらず断片化情報も残っており、正常に復元できる可能性がとても高いものです。
良い	削除されているが断片化情報が残っており、別のデータで上書きされていなければ、正常に復元できる可能性が高いものです。
やや悪い	削除されていないが断片化情報が残っていない状態。断片化していないファイルであれば正常に復元できる可能性があるものです。
悪い	削除されており断片化情報も残っていない状態。断片化しておらず、別のデータで上書きされていなければ、正常に復元できる可能性があるものです。
とても悪い	削除されており断片化情報も残っていない状態。また、ファイルの長さとデータの長さが一致していないため、断片化しているかデータが上書きされている可能性が高く、正常に復元できる可能性が低いものです。
NTFS ファイル	NTFSファイルシステム上のファイルで、断片化情報が残っている状態。別のデータで上書きされていなければ、正常に復元できる可能性が高いものです。

参考②

[設定]アイコンをクリックすると、設定画面が表示され、ファイルの表示設定がおこなえます。必要なファイルを絞り込みたい場合や、検出されたファイルの数が多すぎる場合に設定します。

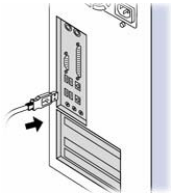


テキストファイルは表示しない	テキストファイルが表示されなくなります。大量のテキストファイルが表示されている場合に表示を消すことができます。
空のファイルは表示しない	0KB のファイルが表示されなくなります。0KB のファイルが大量に表示されている場合に表示を消すことができます。
削除ファイルのみ表示する	通常のファイルは表示されなくなり、削除されたファイルのみが表示されるようになります。
更新日時で絞り込む	設定した更新日時の範囲のファイルのみが表示されます。[▼]をクリックし、カレンダーから日付を選択することもできます。
サイズで絞り込む	設定したサイズ範囲のファイルのみが表示されます。

参考③

[ダンプ]アイコン をクリックすると、選択されたファイルの先頭を確認できます。

2 ファイルの保存先に使用するデバイスをパソコンに接続します。

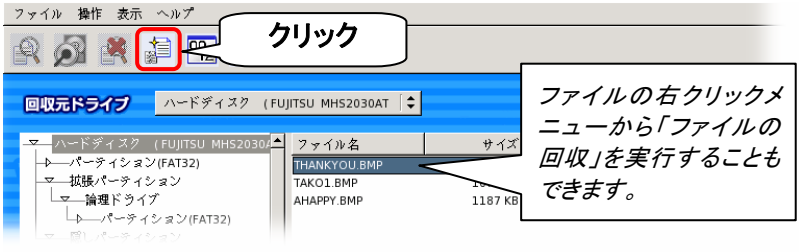


参考

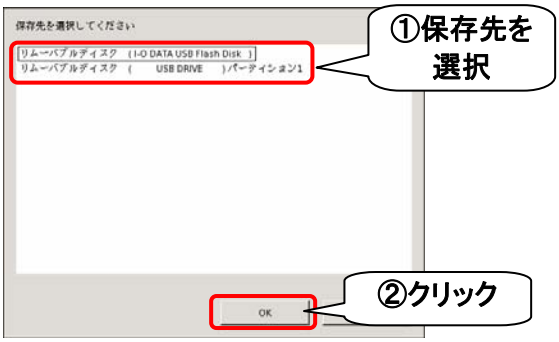
保存先には FAT フォーマット済みの以下の USB 接続ストレージデバイスのみ使用できます。デバイスのアクセスランプ等を確認し、デバイスが認識されるまでしばらくお待ちください。

フロッピーディスクドライブ/USB フラッシュメモリー/MO ドライブ/ハードディスク

3 「ファイルの回収」アイコン をクリックします。



4 ファイルの保存先を選択し、[OK]ボタンをクリックします。
※保存先デバイスに「DataSalvagerFiles」フォルダが作成され、
そのフォルダ内に回収したファイルが保存されます。



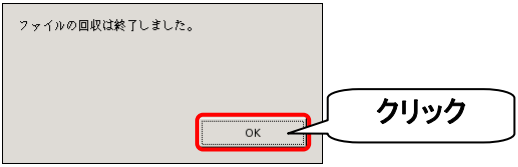
参考①

保存先にはFATフォーマット済みの以下のUSB接続ストレージデバイスのみ使用できます。
フロッピーディスクドライブ/USBフラッシュメモリー/MOドライブ/ハードディスク

参考②

「ファイルを保存できるUSBデバイスが接続されていません。」と表示される場合は、66ページ【困ったときには】「保存先デバイスが認識されない(「ファイルを保存できるUSBデバイスが接続されていません。」と表示される」をご覧ください。

5 [OK]ボタンをクリックします。



以上で[マニュアル検索≪既存ファイルシステム解析≫]によるファイルの回収は終了です。

【参考】ドライブ診断機能

ドライブの状態を診断する機能です。Windows が起動できない場合に、原因を診断します。（データ破損などの論理的な原因か、ドライブの故障や寿命による物理的な原因かの切り分けが行えます。）

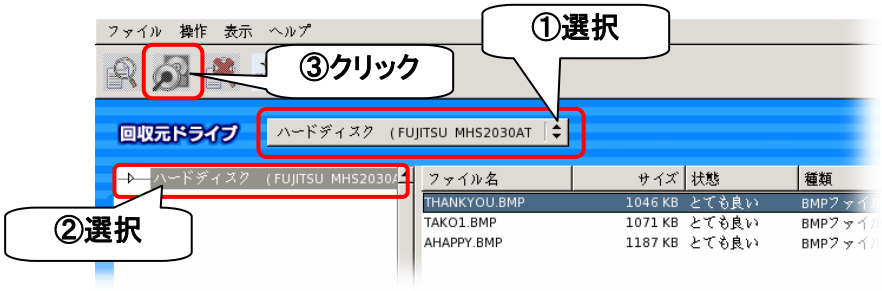
注意！

■デバイス内に回収したいファイルがまだある場合は、ファイルを回収してから、診断を実行してください。

■ドライブ診断機能での診断結果は目安であり、ドライブの動作を保証するものではありません。

1 ①[回収元ドライブ]でドライブを選択します。
②ディレクトリツリーからもドライブを選択します。

③[診断の開始]アイコンをクリックします。

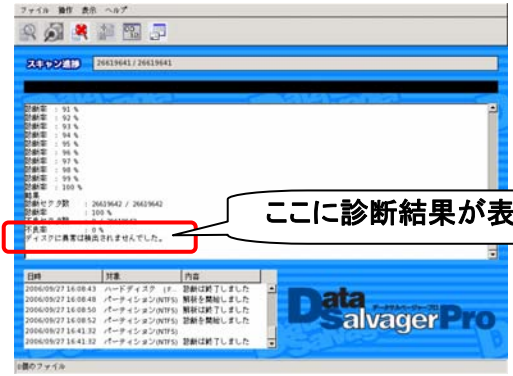


参考

ドライブの診断に要する時間は環境、ドライブ容量、デバイスの接続方式等によって異なります。以下は目安時間です。

・パラレル接続ハードディスク 40GB･･･約 4 時間

2 診断結果が表示されます。



診断結果	概要
ディスクに異常は検出されませんでした	ディスクに異常は見られませんでした。 ただし動作不安定等の問題があれば、ファイルシステムに異常がある可能性があります。まずは必要なファイルを回収し、内容を確認してください。その後、ドライブ内の全ての元データを消去してもよければ、データ消去ソフトなどで消去後、再フォーマットすると、正常に使用できるようになります。*※ハードディスクは消耗品です。故障に備えて定期的にバックアップをとってください。*
ディスクに異常を検出しました	動作不安定等の問題があれば、ファイルシステムに異常がある可能性があります。まずは必要なファイルを回収し、内容を確認してください。その後、ドライブ内の全ての元データを消去してもよければ、データ消去ソフトなどで消去後、再フォーマットすると、正常に使用できる可能性がありますが、こまめなデータのバックアップとドライブの交換をお勧めします。*※ハードディスクは消耗品です。故障に備えて定期的にバックアップをとってください。*
ディスクが異常です	必要なファイルを回収し、内容を確認後、ドライブ交換されることをお勧めします。

3 [中止]アイコン  をクリックし、元の画面（前ページ手順*1*の画面）に戻ります。

以上で[ドライブ診断機能]は終了です。

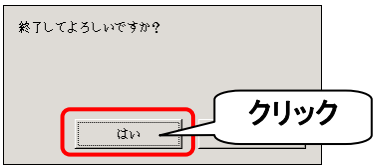
終了する

CD から直接起動した本ソフトウェアを終了し、パソコンの電源を切る手順を説明します。

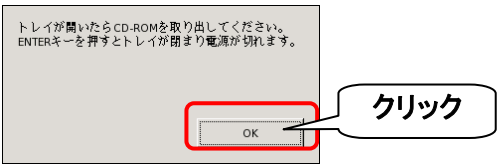
1 [ファイル]メニュー→[アプリケーションの終了]の順にクリックします。



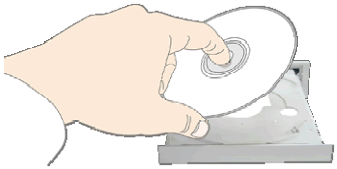
2 [はい]ボタンをクリックします。



3 [OK]ボタンをクリックします。



4 CD-ROMドライブのトレイが開きますので、「DataSalvager Pro」CD-ROMを取り出します。



5 [ENTER]キーを押します。

→CD-ROMドライブのトレイが閉まり、パソコンの電源が切れます。



参考

パソコンの電源が自動的に切れない場合は、電源ボタンを数秒間押し続け、電源を切ってください。

以上で本ソフトウェアは終了しました。

MEMO

ふろく

ツールバーについて……62
DataSalvager Pro の削除……63
困ったときには……64

ツールバーについて

本ソフトウェアでよく使用されるコマンドがツールバーにアイコンで表示されます。現在使用できるアイコンはカラーで、使用できないアイコンはグレーで表示されます。

	ドライブのスキャン	選択されたドライブまたはパーティションをスキャンします。
	診断の開始	≪CD から直接起動時のみ表示≫ ドライブの状態を診断します。
	スキャンの中止	選択されたドライブまたはパーティションのスキャンを中止します。
	ファイルの回収	選択されたファイルを回収します。
	ファイルの先頭をダンプ	選択されたファイルの先頭をダンプします。
	設定	ファイルの表示条件等を設定します。
	ヘルプ	≪Windows 上で使用時のみ表示≫ 本ソフトウェアのヘルプウィンドウを表示します。

DataSalvager Pro の削除

インストールした DataSalvager Pro の削除方法について説明します。

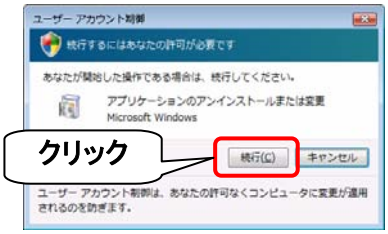
1 [スタート]→([設定]→)[コントロールパネル]の順にクリックし、[コントロールパネル]を開きます。

2 ・Windows Vista™の場合
[プログラムのアンインストール]をクリックします。
・Windows XPの場合
[プログラムの追加と削除]をクリックします。
・Windows 2000/Me/98の場合
[アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックします。

3 ・Windows Vista™の場合
[DataSalvager Pro]をクリックし、[アンインストール]をクリックします。
・Windows XP/2000の場合
[DataSalvager Pro]をクリックし、[削除](または[変更/削除])ボタンをクリックします。
・Windows Me/98の場合
[DataSalvager Pro]をダブルクリックします。



Windows Vista™では右の画面が表示されます。
[続行]ボタンをクリックしてください。



4 [OK]ボタンをクリックします。

5 [完了]ボタンをクリックします。

以上で、インストールした DataSalvager Pro の削除は完了です。

困ったときには

▼全般的な問題

目的のドライブが表示されない

原因①	対応デバイスではない可能性があります。
対処	対応デバイスについては【動作環境】の「対応デバイス」（7ページ）にてご確認ください。

原因②	本ソフトウェア起動後に回収元デバイスをパソコンに接続した。
対処	本ソフトウェア起動後に装着したデバイスは回収元デバイスとして認識されません。本ソフトウェアを一旦終了し、起動しなおしてください。

ディレクトリツリーが開けない

原因	以下のような可能性があります。 ・パーティション情報が破壊されている ・ファイルシステムが破壊されている ・非対応のファイルシステムでフォーマットされている（対応ファイルシステムはFAT12、FAT16、FAT32です。） ・既存のファイルシステムが再フォーマットされている
対処	このような場合でもドライブのスキャンを行うとファイルのいくつかを復元することが可能です。 ［マニュアル検索≪スキャン≫］（31ページまたは46ページ）の手順で、ドライブをスキャンしてから、ファイルの回収を行ってください。

未知のファイルが検出された

原因	ドライブのスキャンをおこなった場合、未知のファイルを検出することがあります。これは実行ファイルに埋め込まれたBMPファイルや、TXTファイルでないファイルの中に存在するテキスト部等をファイルとして検出するためです。

目的のファイルが検出されない

原因①	スキャン方式に「データベース方式」を選択しファイルを検出した場合、ファイル名は復元できません。
対処	スキャン方式に「FAT方式」や「NTFS方式」を選択しファイルを検出するか、[マニュアル検索≪既存ファイルシステム解析≫]（38ページまたは52ページ）の手順で、ドライブをスキャンせずに、ファイルの検出をおこなってみてください。

原因②	ファイルを検出するために必要な情報が足らない場合、目的のファイルを検出できないことがあります。
対処	実行した検出方法と異なる方法を行うことで検出できる場合があります。 試していない検索方法でファイルの検索をお試しください。

ファイルが一つも検出されない

原因	DiskRefresher等の完全消去ソフトで消去されたメディアからは、ファイルを検出することはできません。

検出されたファイルのサイズが違う

原因	本ソフトウェアはファイルの完全な回収を行うものではありません。 元のファイルと異なったサイズで回収される場合があります。

回収したファイルが壊れている

原因	本ソフトウェアはファイルの完全な回収を行うものではありません。元のファイルがあった場所に別のファイルが上書きされている場合や、ディスク上に散らばってデータが書かれているようなファイルの場合壊れたファイルとして回収される場合があります。

検出したファイルの全てが表示されない

原因	ファイルの一覧には32767個以上のファイルを表示することはできません。
対処	[設定]アイコン  をクリックし、表示するファイルの絞込みを行ってください。

▼CD ブート(起動)時の問題

CD からブート(起動)できない

原因①	パソコンまたはCD-ROMドライブがCDブート(起動)に対応していない可能性があります。
対処	ご使用のパソコンメーカーやCD-ROMドライブメーカーにお問い合わせください。

原因②	パソコンの機種によって、起動画面がうまく表示されない場合があります。
対処	以下の手順で本ソフトウェアを起動し、お試しください。 1. 本ソフトウェアCD-ROMを入れたまま、パソコンの電源を入れます。 2. 画面に「boot:」と表示されているときに、「mode1」と入力し、Enterキーを押します。 3. 本ソフトウェアが起動します。 *※画面が若干狭く表示されますが、機能は全てご使用いただけます。*

保存先デバイスが認識されない(「ファイルを保存できるUSBデバイスが接続されていません。」と表示される

原因①	FATフォーマット済みUSBデバイス以外を接続している
対処	保存先にはFATフォーマット済みのUSBデバイスのみが選択できます。FATフォーマット済みのUSBデバイスを接続してください。 なお、複数パーティションが存在するUSBハードディスクの場合は、先頭のパーティションのみ認識可能です。また先頭パーティションがFATファイルシステムでフォーマットされている必要があります。

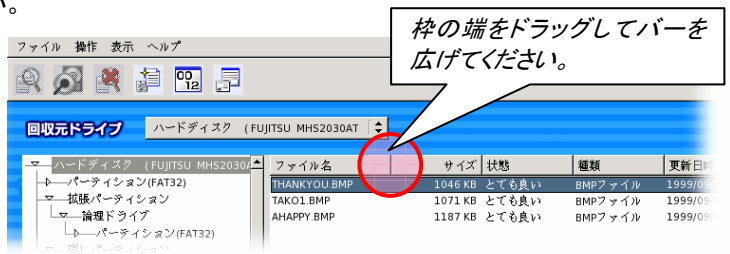
原因②	ストレージデバイスがロックされている
対処	弊社製USBハードディスクのHDDロック機能や、セキュリティ機能付きのUSBフラッシュメモリー等を使用している場合、ロックされているデバイスは認識されません。ロックを解除できる場合は解除し、接続してください。

原因③	メディアのライトプロテクトがONになっている
対処	MOメディアやフロッピーディスク等のライトプロテクトスイッチをOFFにしてください。

原因④	メディアが入っていない。
対処	MOドライブなどは接続しただけでは認識されません。ドライブにメディアを挿入してください。

原因⑤	メモリーが不足している場合があります。
対処	検出されたファイル数が非常に多い場合、メモリーが不足しやすい状態となります。メモリーを増設してください。 *※本ソフトウェアをCDから直接起動して使用する場合の推奨メモリーは512MB以上です。*

ファイル名が表示されない、または文字化けする

原因①	ファイル名の表示枠が短い場合があります。
対処	ファイル名が表示されている枠をドラッグ&ドロップしてバーを広げてください。 

原因②	ファイル名に対応していない（表示できない）文字を使用している場合があります。
対処	まずはファイルの回収をお試しください。（ファイル名がなくても、回収できる場合があります。） ただし、ファイルの回収に失敗する可能性があります。

お問い合わせ

本製品に関するお問い合わせはサポートセンターで受け付けています。

① 弊社ホームページをご確認ください。

本書【困ったときには】で解決できない場合は、サポート Web ページもご覧ください。過去にサポートセンターに寄せられた事例などが紹介されていますのでご参考ください。

http://www.iodata.jp/support/

製品Q&A
News など

本ソフトをバージョンアップすることで解決できる場合があります。下記の弊社サポート・ライブラリから最新のソフトをダウンロードしてお試しください。

http://www.iodata.jp/lib/

最新ソフト

② それでも解決できない場合は…

住所： 〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第２ビル
株式会社アイ・オー・データ機器 サポートセンター

電話： 本社…**076-260-3688** 東京…**03-3254-1095**
※受付時間 9:00～17:00 月～金曜日（祝祭日を除く）

FAX： 本社…**076-260-3360** 東京…**03-3254-9055**

インターネット： http://www.iodata.jp/support/

・お知らせいただく事項について

サポートセンターへお問い合わせいただく際は、事前に以下の事項をご用意ください。

1. ご使用の製品名
2. ご使用のパソコン本体の型番
3. ご使用のOSと本ソフトのバージョン
4. トラブルが起こった状態、トラブルの内容、現在の状態（画面の状態やエラーメッセージなどの内容）

※ご提供いただいた個人情報は、製品のお問合せなどアフターサービス及び顧客満足度向上のアンケート以外の目的には利用いたしません。また、これらの利用目的の達成に必要な範囲内で業務を委託する場合を除き、お客様の同意なく第三者へ提供、または第三者と共同して利用いたしません。

本ソフトウェアは、GNU General Public License, The GNU Lesser General Public License, The GNU Library General Public Licenseなどに基づきライセンスされるソフトウェアを含んでおります。
各フリーソフトウェアコンポーネントのライセンスについては、CD-ROM内のLICENSESフォルダをご確認ください。
※以下【ご注意】は、上記フリーソフトウェアコンポーネントを除く、弊社開発ソフトウェアのお取り扱いについてのご注意です。

【ご注意】

1) 本ソフトウェア及び本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。
したがって、本ソフトウェア及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
2) 本ソフトウェアに含まれる著作権等の知的財産権は、お客様に移転されません。
3) 本ソフトウェアのソースコードについては、如何なる場合もお客様に開示、使用許諾を致しません。また、ソースコードを解明するために本ソフトウェアを解析し、逆アセンブルや、逆コンパイル、またはその他のリバースエンジニアリングを禁止します。
4) 書面による事前承諾を得ずに、本ソフトウェアをタイムシェアリング、リース、レンタル、販売、移転、サブライセンスすることを禁止します。
5) 本ソフトウェア及び本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。
6) 本ソフトウェアの使用にあたっては、バックアップ保有の目的に限り、各1部だけ複写できるものとします。
7) お客様は、本ソフトウェアを一時に1台のパソコンにおいてのみ使用することができます。
8) お客様は、本ソフトウェアまたは、その使用権を第三者に再使用許諾、譲渡、移転またはその他の処分を行うことはできません。
9) 弊社は、お客様が【ご注意】の諸条件のいずれかに違反されたときは、いつでも本ソフトウェアのご使用を終了させることができるものとします。
10) 本ソフトウェアは、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器、兵器システムなどの人命に関る設備や機器、及び海底中継器、宇宙衛星などの高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本ソフトウェアを使用され、本ソフトウェアの故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
11) 本ソフトウェアは日本国内仕様です。本ソフトウェアを日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本ソフトウェアに関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This software is for use only in Japan. We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this software outside Japan and provide no technical support or after-service for this software outside Japan.)
12) 本ソフトウェアは「外国為替及び外国貿易法」の規定により輸出規制製品に該当する場合があります。
国外に持ち出す際には、日本国政府の輸出許可申請などの手続きが必要になる場合があります。
13) 本ソフトウェアを運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。

- 各フリーソフトウェアコンポーネントのソースコードの配布については、弊社ホームページをご確認ください。
なお、配布されるソースコードについては弊社でサポートいたしかねます。
- I-O DATAは、株式会社アイ・オー・データ機器の登録商標です。
- Microsoft, Windows,Windows Vista™は、米国 Microsoft Corporationの登録商標です。
- その他、一般に会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

DataSalvager Pro取扱説明書
2007.02.05
発 行　株式会社アイ･オー･データ機器
〒920-8512 石川県金沢市桜田町3丁目10番地
Copyright © 2006-2007 I-O DATA DEVICE,INC. All Rights Reserved.
本製品及び本書は著作権法により保護されておりますので
無断で複写、複製、転載、改変することは禁じられています。